

2. 事業の概要と成果

上位目標：対象地域において、妊産婦・女性による質のよい妊産婦・新生児保健サービス利用へのアクセスが増加する。

第2年次の達成度：

ムポングウェ郡カルウェオ地区のワンストップサービスサイトにおいて母子保健棟、妊産婦待機ハウス（マタニティハウス）、ユースセンター、助産師住居の4棟の建設が完了し、妊産婦・新生児保健への包括的サービスの提供へ向けた基盤が整った。ザンビアで2カ所目となるワンストップサービスサイトの開所式は、2016年10月7日に催され、カルウェオ地区の母子保健推進員（SMAG）や若者ピアエデュケーター（PE）及びプロジェクト対象地区9地区の保健医療従事者、SMAG、PEの代表も参加し、相互視察としても良い機会となった。

人材育成に関しては、マサイティ郡、ムポングウェ郡の保健医療従事者9名を対象に、保健施設での保健指標管理について、継続的なケアを鑑み、必要な指標を効果的に管理するシステムについて討議し、記録フォームの改訂を行った。また、SMAG 300名を対象に再研修を実施し、第1年次に実施した行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修のフォローアップを行い、地域での啓発教育活動を強化させた。同時に若者PEとSMAGを対象にリーダー研修を実施し、エンターテイメントを取り入れた思春期保健に関する啓発教育活動、特に「月経教育」をテーマに研修を行い、若者への啓発教育活動を強化した。さらに、現地語版の分娩計画及び危険な兆候の教材の制作、月経教育の冊子の制作を行い、草の根での活動をより活性化するツールの開発を行った。コミュニティへの啓発活動強化並びに施設でのより安全な出産環境を整備させ、質のよい保健サービスの向上を目指し、妊産婦や女性の保健サービスへのアクセスの改善を行うことができた。

コミュニティでの啓発教育活動により、プロジェクト対象10地区のうち、7地区で施設分娩が増加した。第1年次のワンストップサービスサイトであるマサイティ郡ムタバ地区保健センターでは、2014年は156件、2015年は201件と施設分娩の増加を見せたが、2016年は175件と低減となっている。また、第2年次のワンストップサービスサイトとして開所したムポングウェ郡カルウェオ地区保健センターの施設分娩数においても、2014年は348件、2015年は369件で、2016年は309件と低減した。これらの低減の理由については、ムタバ地区では、2016年前期に女性看護師が休職をとり、新しく配属された男性助産師のみの体制であったことやマサイティ郡病院の開所に伴い、出産する場所が分散したこと、カルウェオ地区においてもベテラン助産師が不在になり男性医療従事者のみの体制であったことなどが考えられる。ムタバ地区では、女性看護師が休職から戻り、また、カルウェオ地区の保健センターにおいても、2016年10月の開所と同時に助産師や他の保健医療従事者の増員により4名から10名の体制に強化されたため、2017年には施設分娩数が増加することが期待できる。

(2) 事業内容

2015年12月3日から2016年12月2日までに実施された事業内容と経過は以下の通りである。(別添①：活動リスト)

全体

イ) プロジェクトの運営体制の確立

① スタートアップ会議 (47名、1日間)

2016年1月22日に、コッパーベルト州キトウェ市にて、第2年次プロジェクトスタートアップ会議を開催した。保健省、コッパーベルト州保健局、マサイティ郡保健局、ムポングウェ郡保健局、国際家族計画連盟 (IPPF) アフリカ地域事務所 (在ナイロビ)、ザンビア家族計画協会 (PPAZ)、ジョイセフなどから総勢47名が参加した。

第1年次の成果及びマサイティ郡ムタバ地区に開設されたワンストップサービスサイトの経験や好事例を共有し、次いで第2年次の活動計画を確認した。また、マサイティ郡及びムポングウェ郡での母子保健サービス状況について地域マッピングを作成し、プロジェクトの持続可能性に向けた計画について討議した。

ロ) 妊産婦・新生児保健に関する知識と情報の啓発教育

① 若者ピア・エデュケーター (PE) の養成研修 (20名、10日間)

第3年次に予定しているワンストップサービスサイトのムポングウェ郡ミカタ地区で20名のPE養成研修をテルモ生命科学芸術財団の助成を受け、2016年2月に実施した。研修では、思春期の身体の成長と変化やHIVなどの性感染症などの知識について、また効果的な健康教育の方法や人生をたくましく生きる力 (ライフスキル) などについて、積極的に討議する、参加型の研修が行われた。

② 保健医療従事者へのオリエンテーション (9名、1日間)

保健医療従事者9名を対象に、2016年3月に1日間のオリエンテーションを実施した。保健施設での保健指標管理について、継続的なケアを鑑み、必要な指標を効果的に管理するシステムについて討議し、記録フォームの改訂を行った。また、地域における母子保健推進員 (SMAG) や若者ピア・エデュケーター (PE) の監督・サポートについても討議し、地域でのより効果的な連携が強化されることが期待される。

③ 行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修 (300名、2日間×6グループ)

マサイティ郡及びムポングウェ郡のSMAG総勢300名を対象に、第1年次のフォローアップ活動として、行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修を2016年3月～4月に実施した。リプロダクティブヘルス教材 (マギーエプロン、妊娠シミュレーター) を活用し、産前健診、産後健診、家族計画などをテーマにこれまで地域で実施してきた啓発教育活動について参加者間で共有した。また、新たなテーマとして、思春期層を対象とした初経教育を取り上げ、マギーエプロンを活用したセッションの内容をグループワークで討議し、改善を加えた。さらに、SMAGの活動レポートに、住民からよく受ける質問や返答に難しい質問等についても記載できるように、項目を追記した。同時に、妊婦の分娩

計画 (Birth Plan) の改訂を行い、ザンビアの主要言語のベンバ語版を作成した。

④ 若者ピア・エデュケーター (PE) 及び SMAG を対象としたリーダーシップ研修 (24 名、2 日間)

2016 年 3 月に、ワンストップサービスサイトである 3 地区の若者 PE12 名及び若者を担当する SMAG12 名が選ばれ、思春期向けの啓発教育活動、特に初経教育を強化充実することを目的にした研修を実施した。研修では、初経教育にまつわる迷信や、若者からよく聞かれる質問などを含めた Q&A を作成し、ゲームを取り入れた参加型のセッションを行い、初経教育についての理解を深めることができた。また、初経教育に関する冊子「Happy to be a girl」を作成し、PE や SMAG が地域での啓発教育活動にて活用している。今後、現地語版を作成し、若者への啓発教育活動をさらに強化する。

ハ) 保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質の向上

① 母子保健棟の建設・改築および必要な医療器材の供与

第 2 年次のワンストップサービスサイトであるムポングウェ郡カルウェオ地区にて、母子保健棟が完成し、医療器材も整備され、10 月の開所式直後に稼働を始めた。

② マタニティハウス・ユースセンター・助産師の住居の建設並びに参加型ペインティングワークショップの開催

母子保健棟と同様に、マタニティハウス・ユースセンター・助産師住居が建設された。マタニティハウスには、株式会社商船三井から寄贈されたコンテナを建物の一部として再利用し、水タンクは、国際ソロプチミスト東京-銀座の支援によって設置された。また、カルウェオ地区の SMAG 及び PE の参加により、住民参加型ペインティングワークショップを開催した。第 1 年次のワンストップサービスサイトであるムタバ地区から SMAG 2 名、PE 2 名がファシリテーターとして参加し、住民同士による経験移転を行った。マタニティハウスは、継続ケアの観点から女の子の誕生、思春期、結婚、妊娠、老後に至るまでライフステージに重要なリプロダクティブヘルスについて、イラストとメッセージで表現した。また、ユースセンターには、PE が活動で頻繁に受ける質問とその答えを吹き出しやイラストによって描いた。SMAG や PE の積極的な参加により、完成した施設を有効的に啓発教育活動に活用していくことを期待している。また、隣接の既存のマタニティハウスは、付添いの夫などが宿泊できるように、外壁を郡保健局が塗り替え、ワンストップサービスサイトの一部として既存の施設も最大限活用する。

(別添②：住民参加型ペインティングワークショッププログラム)

③ ワンストップサービスサイト開所式の開催

2016 年 10 月 7 日、カルウェオ地区においてワンストップサービスサイトの開所式を開催した。開所式には、在ザンビア日本国臨時大使、コッパーベルト州保健局長、ムポングウェ郡保健局長をはじめ、コッパーベルト州の郡保健局長プロジェクト地区 10 地区のプロジェクト地区運営委員会メンバー、保健医療従事者、SMAG メンバー、PE など代表も参加し、近隣の

村人もあわせて総勢約 1,000 人が集まり、ワンストップサービスサイトを多くの住民に知ってもらい、サービス利用促進の絶好の機会となった。
(別添③：開所式プログラム)

二) 継続ケアのための保健施設と地域間の連携体制が整う

①プロジェクト地区運営委員会 (LSC) レビュー会合の実施 (6月、6日間)

プロジェクト対象 10 地区を 6 日間にわたり訪問し、各地区のプロジェクト運営委員会メンバーと、第 2 年次の成果や地域で見られた行動変容などの好事例、課題について協議を行った。また、地域での活動の持続性に向けた活動計画を 11 月の「持続性のための地域連携ワークショップ」に向けて準備することについても話し合った。

各運営委員会の会合では、保健センターでの施設分娩数の増加、また産前健診・家族計画などに付き添う男性が増加し、若者も性や妊娠・出産について関心が高まってきたなどが挙げられ、地域での健康づくりへの高まりが伺えた。

さらに、10 地区中、6 地区で収入創出活動が開始され、マタニティハウスなど施設の建設、古い建物をマタニティハウスにリフォームするなど、コミュニティで母子保健活動に活かせるための資金調達を計画的に実施し始めた。(別添④：プロジェクト地区運営委員会レビュー会合報告書)

② 本邦研修 (7月、6名@東京・長野)

保健省、コッパーベルト州保健局、マサイティ郡保健局、ムポングウェ郡保健局、ザンビア家族計画協会から計 6 名の参加で、日本の母子保健の経験や地域の母子保健推進員と行政の連携などの理解を深めることを目的に本邦研修を実施した。長野県における、地方行政、保健所、母子保健推進員などの役割や連携協力などについての学びから、活動の持続性に向けた活動計画を策定した。

(別添⑤：本邦研修報告書(日・英))

③SMAG レビュー会合の実施 (9月、10月、6日間)

プロジェクト対象 10 地区を訪問し、SMAG メンバーとの年 1 回のレビュー会合を実施した。各地区での成果や行動変容に関する好事例、また課題についても協議を行い、計画中または実施している収入創出活動についても進捗状況を共有した。3 月に SMAG の活動レポートフォームの改訂を行ったが、地区によっては十分に記載ができておらず、英語の読み書き、記載項目が多すぎたことが影響しているため、さらにシンプルなフォームへの改訂が必要である。

(別添⑥：SMAG レビュー会合報告書)

④ 持続性のためのコミュニティ連携強化ワークショップの開催 (11月18日、1日間)

プロジェクト対象 10 地区の保健医療従事者、プロジェクト地区運営委員会、SMAG メンバー、PE の代表、及びマサイティ郡・ムポングウェ郡保健局長、PPAZ 事務局長も参加し、カルウェオ地区のユースセンターにおいて「持続性のためのコミュニティ連携強化ワークショップ」を開催

	<p>した。各地区の代表による好事例及び課題の共有、持続性に向けた活動計画について発表した。さらに、本邦研修での学びや教訓についても共有された。ワンストップサービスサイトであるムタバ地区の代表は、ヤギ飼育や野菜栽培などによる収入創出活動を紹介した。また、マサイ郡カンボワ地区ではコミュニティ主体により古い建物をマタニティハウスにリフォームした事例などが共有され、他の地域へのよい刺激となり、今後のコミュニティによる主体的な保健推進活動への確実な一歩となった。収入創出活動については、今後も引き続き国内の専門家などとも連携してフォローする必要がある。</p> <p>(別添⑦：持続性のためのコミュニティ連携強化ワークショップ報告書 別添⑧：カンボワ地区マタニティハウス開所式プログラム)</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>1) プロジェクトの運営体制が整う</p> <p>第1年次にプロジェクト対象10地区で、既存の保健委員会を活用し、住民リーダーや保健医療従事者、SMAG、宗教指導者、教師などで構成されるプロジェクト運営委員会(Local Steering Committee)が設置された。第1年次に確立した運営体制に基づき、第2年次のスタートアップ会議を開催した。地区レベルプロジェクト運営委員会メンバー及び、郡保健局、州保健局、保健省などの関係者と、第1年次の成果及び課題を見直し、第2年次の活動計画を共有して、プロジェクトへの理解を深めコミットメントを強化した。主体的な活動運営への意識を高めるために、事業の持続可能性についての協議を開始した。</p> <p>2) 家族計画、産前・出産・産後ケア、性感染症を含む正しい知識と情報が地域住民に届く</p> <p>第1年次及び第2年次の活動では、SMAG300名(プロジェクト対象10地区)及び若者PE60名(ワンストップ・サービスサイト3地区)の育成研修、再研修を実施し、地域での家庭訪問やグループトークなど様々な啓発教育活動が地域で展開された。マギーエプロンなどの視覚教材を効果的に活用したセッションは、SMAGを対象とした研修でレビューが行われた。また、若者PEを対象にした研修では、月経教育をテーマとし、思春期層への啓発教育活動を強化させ、保健医療従事者、コミュニティ、また学校とも連携し、啓発教育を進めている。月経教育の冊子については現地語版を今後制作する予定である。</p> <p>各保健施設での保健指標及びSMAGやPEの活動レポートについては、関係者へのヒアリングをもとに、必要な指標を再検討し、改訂を行った。また、カルウェオ地区においては、コミュニティモニタリングボードを設置し、活動の成果がコミュニティに共有できる仕組みを整えた。</p> <p>また、育成したコミュニティの人材について、SMAGは9割以上のメンバーが活発に活動を継続しているが、若者PEについては、活動的なメンバーとして残ったのは、2015年4月に研修を受けてから1年後(5月)には約4割であった。その背景には、学校に戻るものや、仕事のため移動するなどの理由が挙げられる。その後、活発に活動している若者PEが、啓発教育時に関心のある若者に呼び掛け、一緒に活動を行う若者が5名から15名(2年次終了時の2016年11月)に増えた。一方で、若者PEの活動の持続性については、各運営委員会や保健センターと連携し、継続した活動が展開できる体制を検討する必要がある。また、郡保健局や若者PEとユースセンターでの有</p>

効活用について協議を重ね、ユースセンターでの週刊プログラムを策定し、定期的に啓発活動を行っている。さらに学校と連携し、ユースセンターを有効活用し、より多くの思春期層への啓発教育活動を推進するため、フォローアップを強化していく予定である。

3) プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健のサービスの質が向上する

カルウェオ地区における母子保健棟、マタニティハウス、助産師住居、ユースセンター4棟の建設、医療器材の調達を行い、住民参加型ペインティングワークショップを実施し、10月に開所式を開催した。

ワンストップサービスサイトであるムタバ地区およびカルウェオ地区のマタニティハウス・施設分娩件数は以下の表の通り。

マサイティ郡ムタバ地区

施設分娩件数・マタニティハウス (MH) 利用者 2014年・2015年・2016年

2016	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sept	Oct	Nov	Dec	合計
施設分娩 2016年	11	14	13	21	14	16	15	11	16	12	16	16	175
施設分娩 2015年	15	10	20	15	12	13	14	24	23	17	19	9	201
施設分娩 2014年	12	12	8	9	15	8	17	21	16	16	3	19	156
MH2016年	7	9	6	8	7	12	6	9	6	12	8	7	97
MH2015年	-	-	-	-	-	-	-	-	7	5	5	6	23

ムポングウェ郡カルウェオ地区

施設分娩件数・マタニティハウス利用者 2014年・2015年・2016年

2015	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sept	Oct	Nov	Dec	合計
施設分娩数 2016年	27	26	22	23	23	31	29	34	30	22	24	18	309
施設分娩数 2015年	31	19	28	28	27	33	31	33	36	39	37	6	369
施設分娩数 2014年	31	19	28	28	27	33	31	33	36	39	37	6	348
MH2016年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	3	5	15

プロジェクト対象地区 10 地区のうち、7 地区にて施設分娩が増加となった。一方で、第 1 年次のワンストップサービスサイトであるマサイティ郡ムタバ地区では、2014 年は 156 件、2015 年は 201 件と増加を見せたが、2016 年は

175 件と低減となった。2016 年前期に女性看護師が休職となり、新しく配属された男性助産師のみの体制であり、他の地域で出産する女性が増えたこと、またマサイティ郡病院の開所に伴い、出産する場所が分散したことが考えられる。2016 年に施設で出産した者の半分以上がマタニティハウスを利用した。

2 年次のワンストップサービスサイトとして開所したムポングウェ郡カルウェオ地区の施設分娩数でも、2014 年は 348 件、2015 年は 369 件、2016 年は 309 件と低減した。これには、2016 年に 1 月にベテラン助産師が不在となり、男性看護師 2 名の体制であったことが施設分娩数が低減した理由として考えられる。10 月の開所と同時に助産師や他のスタッフの増員により 4 名から 10 名の体制に強化されたため、2017 年には施設分娩数が増加することが期待できる。

4) 継続ケアのための保健施設と地域間の連携体制が整う

地区レベルプロジェクト運営委員会のレビュー会合及び SMAG のレビュー会合で、各地区における行動変容の好事例や課題について討議し、活動の持続性のための活動計画を協議した。また、7 月の本邦研修では、日本の地方行政と地域の保健ボランティアである SMAG 等との連携による活動から、より質の良い母子保健サービスを提供するシステムづくりを学び、包括的な母子保健サービスや持続発展のためのシステム強化に向けた活動計画を策定した。

第 2 年次最後の活動として開催した「持続性のためのコミュニティ連携強化ワークショップ」では、各地区の好事例や持続性のための活動計画や活動状況を共有しあうことにより、相互にとっての学びとなり、コミュニティ主体による保健活動の活性化につながった。特に、ムタバ地区でのマタニティハウスのキッチン（台所）の建設、各世帯による寄付、ヤギによる収入創出活動、カンボワ地区の古い建物をマタニティハウスとしてリフォームしたコミュニティ主体による活動は、コミュニティの既存のリソースを活用しコミュニティが主体的に推進した保健活動の好事例としてよいモデルとなった。

(4) 持続可能性

本事業は、ザンビア政府や現地 NGO (PPAZ) が本来業務として行う母子保健サービスの普及及び向上を推進するもので、プロジェクト開始当初から実施関係組織である州、郡の保健局、PPAZ との協議を重ね、計画、実施、運営、モニタリングを協働で実施している。

第 2 年次のワンストップサービスサイトであるカルウェオ地区保健センターでは、ムポングウェ郡保健局が保健医療従事者の人材を 4 名（看護師 2 名、クリニカルオフィサー 1 名、環境衛生士 1 名）から 10 名（助産師 1 名、看護師 4 名、クリニカルオフィサー 3 名、環境衛生士 1 名、臨床検査技師 1 名）に増員し、ムポングウェ郡東部における拠点として包括的な保健サービスをより多くの住民に提供できる環境を整備した。

マタニティハウス及びユースセンターの運営管理は、プロジェクト地区運営委員会 (LSC) が担っている。第 1 年次同様に開所式後に、カルウェオ地区の LSC メンバーと、マネジメント会議を開催し、運営管理体制、妊婦の入所記録、鍵の管理、施設の清掃など、具体的な体制と役割について協議した。引き続きフォローアップの必要性がある。

また、郡保健局では、年間事業予算が当年度 10%増額され、特にワンストップサービスサイトの保健施設のメンテナンス費やコミュニティでの活動、相互研修などに活用できるよう、予算の確保ができた。

一方、各プロジェクト対象地区では、コミュニティでの活動の持続性や施設の運営管理のための活動計画を策定し、10 地区全ての地区で農業、ヤギ、養鶏などによる収入創出活動や寄付などによる資金集めの取り組みが開始された。これらの取り組みは、農業や収入創出の専門家を招き、第 3 年次に予定しているワークショップや研修の一部としてフォローアップを行う必要がある。

今後さらに、郡保健局の母子保健担当及び思春期保健担当との連携を強化し、各地区での相互視察の機会を計画し、各地区の保健医療従事者及び LSC メンバーのオーナーシップを高め、持続性に向けた体制を整えていく。